

■CONTENTS■

【特集】卒業生保護者からのメッセージ 「後輩保護者へ伝えておきたいこと」

先輩保護者からのメッセージ～卒業生保護者の「感慨」に思いを馳せて。～

進路だより「わーく&らいふ」では、毎年恒例の特集記事として、卒業生保護者にお聞きした右のアンケートの結果から、後輩の皆さんに向けたメッセージをお届けします。

特別支援学校は、小学生から高校生までが同じ敷地の中で学んでおり、学習・生活・行事等、さまざまな場面で関わり合うことで、互いに年長者としての意識、先輩や上学年・学部へのあこがれを生み出し、子どものキャリア発達に大きな影響を与えるよい環境と言えます。

本校保護者の皆様にとっても同じ事が言えます。身近な場所に、我が子の数年あるいは10年あまり先を歩む先輩たち（生徒も保護者も）を見ることで、「将来必要なこと。」に気づき、「将来必要なこと。」は「今から必要なこと。」を知ることができるはずです。

今回の特集には「進路選択に向けたポイント」をはじめ、「これまで効果的だった取組や足りなかった取組」など、後輩保護者の皆様や私たち教職員にとって「今から必要なこと」や「視点」を考えるヒントが盛りだくさんです。学校生活を終えようとしている先輩保護者の今の複雑な「感慨」に思いを馳せながらどうぞお読みください。

卒業生保護者へのアンケート項目

- 質問1 進路を決めるに当たってのポイント
- 質問2 家庭の取組で「やって良かった」と思うこと
- 質問3 学校の学習・生活を通して身につけたこと
- 質問4 もっと力を入れておけば良かったこと
- 質問5 その他 後輩に伝えたいこと



質問1 「進路を決めるに当たってのポイントは何ですか？」

◆親が事前の情報収集をしておくこと

- ・まず親が情報を集め知ること。パンフレットなどがあると子どもに話しやすいです。

◆本人の性格・得意なことをヒントに考えること

- ・子どもが最も得意とすることや好きなことを伸ばす。苦手なことや嫌いなことをムリにやらせても長く続くとは思えないので避けました。
- ・日頃から本人の得意な部分を観察してました。細かい作業が好きなので、できることならそのような仕事に就けるといいなあと思ってました。

◆本人の意思を確認すること

- ・現場実習を通じ、本人の特性に合ったところを見極めるようにと考えていましたが、我が子の場合は明確に「この仕事がしたい」という意思表示があったのでその希望を最大限尊重しました。
- ・姉のようになりたいと（姉の仕事に）憧れていました。運良く家の近くで実習先が見つかり、（本人が）即答で「行きたい」と言いましたので、心配はありましたが本人に任せました。



◆安全・安心な場所であること

- ・本人が安心してそして安全に過ごせる場所を優先して決めました。
- ・健康面に不安を抱えていたので安心・安全に過ごせる環境とスタッフさんの対応、いざというときに家族が駆けつけやすい場所などを考えました。

◆現場実習の様子から考える

- ・できる、できそう、苦手、続けられるかなど、本人の感想（から考えました）

【まとめ】進路選択のポイント

「本人の性格や特性」を踏まえて、「親が十分な情報収集をしておく」、学校の現場実習を通じて「本人の意思を確認」し、「親の目で見た安心感」ある場所を考えていくことが大切だとわかります。高等部では毎学年で現場実習（施設体験）を実施し、実習後には三者面談で総合的に振り返り、進路の方向性について確認します。ここでおすすめしたいのは、ご家族に実習の様子を見学していただくことです。覚えておきましょう。

また、お子さんのことを整理しておくことも重要です。親の目で見たお子さんの「長所」「短所」「努力すればできそうなこと」「どうしても無理なこと」「教えるためのコツ」など具体的に書き出してみることをおすすめします。

質問2 家庭の取組で「やって良かった。」と思うことは何ですか？

◆生活リズムづくり・よい習慣づくり

- ・目覚ましでの起床。時計をみて動く（登校や服薬など）ことを通して自分で責任をもって生活することができるようになりました。
- ・自分の好きな事柄（遊びや行事）については準備万端なのに、そうでもないもの（片付けや準備など）については忘れることが多かったので目に見えるところにメモを貼

ったりして行動を促し習慣づけできました。

◆手伝い・家事

- ・ゲーム中心の生活にならないよう、お手伝いは必ず何かひとつはするようにしました。
- ・家事の手伝いを習慣化することが出来、生活のリズムやバランスが整ったと思います。
- ・夕食の準備や手伝いを子どもに任せました。それにより考え行動する力がついたと思います。
- ・自立するに当たって毎日の生活が大事と考え同じ手伝いを毎日させました。最初は一緒にやり、少しずつ一人であることを多くしました。今では一人でごはんを量り、炊飯することが出来るようになりました。また、洗濯物は、干して、たたんで、片付けまで、食器の片付けもやってくれるのでとても助かっています。毎日コツコツと続けてきて良かったと思いました。
- ・デイサービスの先生方のアドバイスで、デイサービスでは掃除機をかけたりテーブルを拭いたり、家では自立に向けて自分の洗濯物を干す、たたむことをしてくれるようになりました。



◆親子の関係づくり

- ・母親はつつい叱ることが多かったのですが、父親はいつも穏やかに接していました。できればほめて伸ばす方がよかったのかなと思います。
- ・コロナウイルスが流行し自粛期間中は、「親子の時間」が出来ました。一緒に料理を作ったり、またお手伝いもしてくれるようになり、自分のためになることがひとつずつ増えた気がします。
- ・とにかく日々楽しく過ごしていたようで、話したいことがたくさんあり、とにかく聞きました。連絡帳に書いてあった良かったことは繰り返し家でもほめました。



◆いろいろな経験・サービスの利用

- ・幼い頃から子どもにいろいろな経験をさせたことです。そうすることで親だけじゃない、いろいろな人と関わりをもち「人」を受け入れる力が育ったように思います。いつか親の元から巣立っていくことを考えるとたくさんの人から愛される、可愛がられる人になってほしいと思いながら育ててきました。

【まとめ】家庭での取組 ポイントは「長い目」と「習慣化」

家庭生活の良さは、毎日繰り返し同じ事を同じ順序で取り組めることです。つまり、ルーチンとして教えやすく、繰り返すため身につきやすい場所が家庭です。とはいえ、成果が出ずに焦ったり諦めたりすることもあるかも知れません。ポイントは「時間を味方につける」という考え方です。1年間で身につけられる行動は1つただけだとしても、12年間あれば12もの行動が身につくはずと考え、焦らずに長いスパンで考えましょう。そうして、よい「習慣」をたくさんつくりましょう。

質問3 学校の学習・生活を通して身につけたことは何ですか？

◆良好な人間関係と集団生活でのコミュニケーション

- ・小・中学校でも友人がいなかったわけではありませんが、高校生になり自分から友達の輪を広げるようになったと思います。自分をアピールできるようになりました。でも、なかなかコミュニケーションが上手くいかず泣、笑、怒ったりと生きている証ですが、その度に先生方の温かいご指導時には厳しくご指導くださったおかげで人として、女性として大切なことを学ぶ事が出来た3年間でした。「思いやり助け合い」ながら困っている人がいたら声をかけれるようになったと思います。
- ・集団生活の中での人との接し方や距離感、気持ちの切り替えなどを学びました。
- ・同級生と協力する力、思いやる力が育ちました。
- ・集団での活動やお友達との関係を楽しめるようになりました。
- ・友達との距離の取り方、トラブルの対処は学年が上がるにつれ上手になりました。
- ・人と話すことを楽しいと思えるようになり、自分から話しかけることが出来るようになりました。
- ・学校へ登校するようになってから先生などへの言葉遣い（敬語）がいつのまにか身についており驚きました。



◆よい生活習慣

- ・欠席が減り真面目に通学できるようになりました。
- ・うがい・手洗い・歯磨きをして健康に過ごせる力がつきました。
- ・時間を考えて登校できる時間配分ができました。



◆自己肯定感(自信)が育った

- ・学校でのことをたくさん話してくれるようになりました。
- ・チャレンジできるようになりました。
- ・人前で発表できるようになりました。
- ・出来ることが増え、自信をもてるようになりました。
- ・学校生活で自信がつき、人前での発表や挨拶など、積極的に活動できるようになりました。



◆公共交通機関の利用

- ・自転車・JR・バスを乗り継いで一人で学校まで登校できるようになったことです。帰るときには「〇時の電車で帰ります」とメールで連絡するようになり、今どこを帰っているのかわかりました。



【まとめ】学校生活の意義 ～社会へ出るための準備の場～

学校生活は、いろいろな人と「過ごす」「活動する」「はたらく」ことを練習するための大切な場所のひとつで、将来の社会生活への準備期間です。学校の集団生活には、苦手な活動があるばかりでなく、ルールや制約もたくさんあり、子どもにとって心地よいことばかりではありません。しかし、集団生活だからこそ、友人やクラスメイトにいい影響を受けて取り組み、課題を解決することができるのも学校です。こうして子どもたちは、「努力すればできること」「周囲から認められること」を体感し、将来社会を生きていく上で大切な自分の可能性に気づくのです。

質問4 もっと力を入れておけば良かったと思うことは何ですか？

◆体験・経験・夢中になれること(モノ)探し

- ・本人にとって何か夢中になれるモノをさがすことが出来なかったので少し悔やまれます。

◆自力通学

- ・交通の便が悪く途中まで車で送りだったので完全自力通学です。
- ・交通機関の利用の練習です。

◆コミュニケーション

- ・質問したいときや質問されたときの受け答えに時間がかかるのでもう少しスムーズに出来るようになるとよかったなあと思いました。
- ・家でのコミュニケーションをもっと深く（本人から学校での出来事を話すなど）やっておけば良かったと思います。



◆自主性・主体性

- ・一人で出来ることまでもサポートしすぎていたような気がします。失敗しても大丈夫！ぐらい少し遠目で見守るぐらいの距離でちょうどよかったのかなあと反省しているところもあります。
- ・日常生活の中で時間の制約もあって本人の自主性を尊重できなかった場面もあったと思います。

質問5 その他、後輩へ伝えたいことは何ですか？

◆一人で頑張りすぎず、いろいろな人の力を借りることも大切なこと

- ・障がいのある子を育てる親として人生を賭けて向き合うことは、とき大変で、ときに大きな喜びとなります。人の力をお借りすること。これも大切なことです。
- ・学校・デイサービス・相談員さん・保護者の皆さんとの話でアドバイスを頂くと気持ちが楽になってきます。
- ・頑張りすぎず、子どもと共にゆっくり楽しみながら歩んでいってください。

◆子どもの「強み」を育てること

- ・いろいろ出来ることと出来ないことはありますが、何かひとつでも強みをつくとよいと思います。息子はニコニコしていて周囲の大人からも可愛がられます。挨拶も笑顔でするのでそれだけ好印象ですのでよい強みになると思います。
- ・学校生活で子どもの特性、どんなことができるのかを見つけてほしい。

◆学校はかけがえのない場所であること

- ・仲間、友達がいる学校は楽しいかけがえのない場所でした。
- ・学校生活を通じて、本人だけでなく保護者である私たちも成長させて頂きました。先生方の姿勢や生徒さんたち一人一人の頑張る姿にたくさんの気づきや学び感動がありました。
- ・連絡帳や学校で先生と話し、対応の仕方など学ばせて頂くことが多く親としても勉強になりました。担任の先生はじめ学校中の先生方にたくさんの愛情をもって育てて頂いたんだなあと思います。
- ・夏休みに「学校行きたい」という言葉が出てきたときはびっくりしました。
- ・入学して心配することもなかったです。小中高と過ごしていく中で一番楽しく通えた場所だったと思います。
- ・毎日楽しく学校へ行ってくれたので親も安心しました。先生方や友達と過ごす時間を大事にしてください。
- ・明るく優しいクラスメイトにも恵まれ、ただただ感謝しかないです。幸せな3年間だったと思います。心からありがとうございました。



編集後記

先輩保護者からのメッセージはいかがだったでしょうか。実体験を踏まえたメッセージには、はっとさせられることも多かったのではなかったでしょうか。

さて、私が教員になった30数年前と比べ、保護者間のつながりは格段に寂しくなっています。しかし、障がいのある子どもたちの育ちや進路を考えるに当たっての親の不安、悩み、葛藤は今も昔も変わりません。であれば、先輩が体験したことを、語り継ぐことは特別支援学校では特に重要なことだと感じます。今回は先輩保護者の「成功談」「反省談」を特集しました。いずれも学びの要素が満載です。これからの家庭教育に活かしていただければ幸いです。（文責 谷口）